

松下幸之助に学ぶ!!

『繁栄による平和』

第三回

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

(徳島PHP友の会顧問)

(H/PHPA&&

『菜根譚の会』世話人)

安倍『未来チャレンジ内閣』の臨時国会での補正予算が定まり、いよいよ安倍首相の外交手腕が問われる段階になりだしてきた。一つはロシアとの北方領土問題や経済協力的やりと

りの問題であり、今一つは米大統領選挙で話題になっている『TPP問題』。クリントン、トランプ両大統領候補が『反対』を表明しているが、わが国ははまだ交渉内容を国民へ鮮明にしていな

い。真意が何であるのか、交渉を担当した甘利前大臣の説明も聞いたことがない。農水大臣の無責任発言もあり、与野党のやり取りを注視したい。

『解散風?』が吹く中で外交面でのやりとりが注目を集めることは珍しい。

国民の支持を集め、和平交渉を貫くとすれば、誠実であくまで冷静沈着にことに処する心構えを保持しておかねばなるまい。

先月号の話は、松翁が提唱した【新しい人間観の提唱】にまつわる話が紙面の都合で中途半端に終わってしまった。

数年前、本誌上で【新しい

人間観の提唱】についての『提唱文』の解説をしたことがあった。それは松下電器創業者である松翁の【人間研究】の結果を明らかにされた『人間観』について、社員の理解を促進するために纏めた小冊子で解説したものであった。

改めてアチーブメント(株)の青木社長とPHP研究所の佐藤専務のやり取りで話を進めるために、また、理解しやすくするためにここへ、松下幸之助の『提唱文』を再度記載しておこう。

【人間を考える】第一巻の新しい人間観の提唱文

新しい人間観の提唱

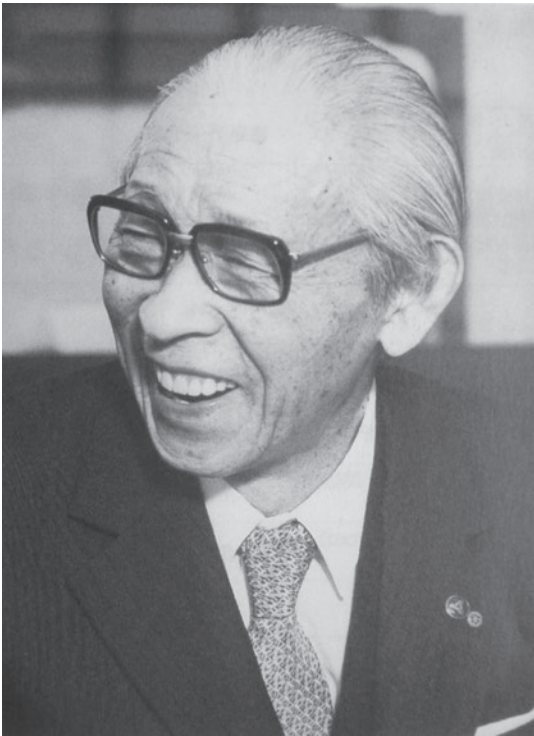
宇宙に存在するすべてのものは、つねに生成し、発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である。

人間には、この宇宙の動きに順応しつつ万物を支配する力が、その本性として与えられている。人間は、たえず生成発展する宇宙に君臨し、宇宙にひそむ偉大

なる力を開発し、万物に与えられたるそれぞれの本質を見出しながら、これを生かし活用することによって、物心一如の真の繁栄を生み出すことができるのである。かかる人間の特性は、自然の理法によって与えられた天命である。

この天命が与えられているために、人間は万物の王者となり、その支配者となる。すなわち人間は、この天命に基づいて善悪を判断し、是非を定め、いつさいのものの存在理由を明らかにする。そしてなにももかかる人間の判定を否定することはできない。まことに人間は崇高にして偉大なる存在である。

このすぐれた特性を与えられた人間も、個々の現実の姿を見れば、必ずしも公正にして力強い存在とはいえない。人間はつねに繁栄を求めつつも往々にして貧困に陥り、平和を願いつつもいつしか争いに明け暮れ、幸福を得んとしてしばしば不幸におそわれてきている。



そ、みずからに与えられた天命を悟らず、個々の利害得失や知恵才覚にとらわれて歩まんとする結果にほかならない。

すなわち、人間の偉大さは、個々の知恵、個々の力ではこれを十分に発揮することはできない。古今東西の先哲諸聖をはじめ幾多の人の知恵が、自由に、何のさまたげを受けずして高められつつ融合されていくとき、その時々々の総和の知恵は衆知となつて天命を生かすのである。まさに衆知こそ、自然の理法をひろく共同生活の上に具現せしめ、人間の天命を發揮させる最大の力である。

まことに人間は崇高にして偉大な存在である。お互いにこの人間の偉大さを悟り、その天命を自覚し、衆知を高めつつ生成発展の大業を営まなければならない。

長久なる人間の使命は、この天命を自覚実践することにある。この使命の意義を明らかにし、その達成を期さんがため、ここに新しい

人間観を提唱するものである。

昭和四十七年五月

松下幸之助

さて、理解しやすいようにするために、二部、先月号の話を重複させつつ話を進めよう。

佐藤専務

「つまり人間にはこの宇宙の動きに順応しつつ、万物を支配する力がその本性として与えられているのだと、幸之助は考えます。『新しい人間観の提唱』文で、『人間はたえず生成発展する宇宙に君臨し、宇宙にひそむ偉大なる力を開発し』と述べているのは、そこなんです。」

万物それぞれの本質を見いだしながら、それを生かすことによつて、物心一如の眞の繁栄を生みだせるといふのが幸之助の信念でした。」

青木社長

「いわれてみれば、そうやって人間はいろいろなものを発見し、発明し、成長させてきたからこそ今ここにいたっているわけですね。もう地球

上の資源はほとんど使い尽したような気になつていたりしても、まだほんのわずかしが発見していかないのかもしれない。」

佐藤専務

「だからよく石油はあと何年しかもたないなどといわれていますが、その代わりになるものが必ず用意されているのです。ある時期になると、人間はそれをみつけたして活用する。それより生活を高めていくことができるといふ考え方ですから、行き詰ることはありません。」

実際、地球の歴史、人間の歴史を見ていくと、太古から今日まで、さまざまなものの特性を見いだしながら生成発展してきているのではないかと、幸之助は言うわけです。すべては人間に生活に役立つたり、高めたりするために用意されていて、人間はそれを見いだしていくことができるという。ある意味、幸之助は大変な楽天主義。大楽観であり、小悲観です。

そのときときには、このま

ま行くところでもないことになる、危機意識をみなに与えて、警鐘を鳴らすようなこともありますが、一方でこの世界は生成発展していくという大楽観主義が幸之助の発想の基調でもあります。」

青木社長

「生成発展は幸之助さんの言葉ですが、まさに私も『人は必ずよくなれる』と自分にいい聞かせながら、人生を歩んできました。そもそも私は事実と現実と真実は違ふと考えています。事実とは二つ、解釈は無数、解釈Ⅱ現実だと私は思っています。つまり事実をどう解釈するかによつて現実が変わってくるということです。」

これは私が能力開発トレーナーとしてずっとメッセージしつつつけてきたことです。が、ポジティブな考え方で生きていく人は明るい心でよい人生を送ることが出来ます。まさにその人が考えた、つまり解釈した通りの現実になる。

私はアール・ナイチンゲールの『人間は自分が考えているような人間になる』という言葉に強く影響を受けました。肯定的な解釈も否定的な解釈も、どちらも間違つていません。どちらもその通りの現実を呼び寄せるのですから、どちらも正しい。あとはどちらのアプローチを選択しますか、という問題だけです。

人生は物事に対する意味づけ、意義づけで変わります。幸之助さんは世の中を楽観的な生成発展の法則でとらえています。私も生成発展を信じている人間です。ですからつらい人生も幸せな人生に替えていくことができました。」

生成発展を信じつつけるために、私の携帯電話には暗示の言葉が入っています。私はその暗示通りに生きていくのです。」

佐藤専務

「どんな暗示の言葉ですか。」

(それは次号で…)

(つづく)